



慶應義塾大学

✕ 慶應義塾ワグネル・ソサィエティー
OB合唱団

同志社大学

▽ クローバークラブ

第20回 東西四大学 OB合唱連盟演奏会

早稲田大学

稲門グリークラブ

関西学院大学

新月会

2015年8月2日(日)

フェスティバルホール
開演/15:00

ご挨拶

本日は第20回東西四大学OB合唱連盟演奏会にご来場賜り、誠に有難うございます。

1977年の第1回演奏会が東京、九段会館で開催されて以来2年ごとに東京と大阪で行われ、今回は20回目という記念の演奏会となりました。これだけ長く続けることができましたのは客席の皆様の温かいご声援の賜物でございます。

その間、母校の現役メンバーが減少して部活動の運営が厳しい時期もありましたが、OBが元気に合唱活動している姿を見せ、又、現役を支えていくことをあらためて確認しました。

本日、リニューアルされたフェスティバルホールで、80歳を超える大先輩から今年卒業のメンバーまで60年余にわたる世代が全国各地から集まり480人がステージで歌います。

男声合唱に対する1人ひとりの熱い情熱と深いハーモニーを感じていただければ幸いです。

最後になりましたが、皆様のますますのご発展とご健康を心からお祈りいたします。

2015年8月2日

東西四大学OB合唱連盟





慶應義塾長
清家 篤

東西4つの私立大学の合唱団OBが、それぞれの歌声を競い合ってきた「東西四大学OB合唱連盟演奏会」が、本日に開催されます。今回で第20回目の節目となる本演奏会は、2年に1度、東西で交互に開催してきました。本日ご来場くださった皆様をはじめ、長年演奏会を支えてこられた皆様に敬意を表します。

学生時代、合唱に青春を燃焼させてきた各大学の各団員は、卒業してからも多忙な日常の中で時間を作っては練習を積み、また長きにわたって交流を重ねてこられました。音楽のすばらしさを分かち合い、青春の絆を育み、練習を継続してこられた四大学合唱連盟の皆様が、それを乗り越えて演奏会開催を実現されたのは本当に素晴らしいことです。新装なった大阪のフェスティバルホールで披露される演奏で、そうした皆様の交流の成果が遺憾なく発揮されるものと期待しています。ご来場の皆様には、どうか心ゆくまでお楽しみいただきたいと思います。

本日この会場に集まれたすべての皆様のますますのご発展をお祈り申し上げますとともに、東西四大学の合唱団の結びつきがますます強固なものとなりますことを願っております。



同志社大学 学長
村田 晃嗣

第20回東西四大学OB合唱連盟演奏会が、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

クローバークラブは1954年(昭和29年)の創立以来、60年を超える長きに渡って、精力的に活動されてきました。その活動の中でも、この東西四大学OB合唱連盟演奏会は、特に大きなイベントと言えるでしょう。四大学のOBの皆様が、相互の協力と並々ならぬ努力によって演奏会を継続してこられました。皆様の情熱あふれる活動に対し、同志社大学学長として、深く敬意を表する次第です。

本日は、日頃の練習の成果を存分に発揮してください。そして、その素晴らしい歌声が、聴衆の皆様的心を震わせ、夢や感動を届けることを期待しています。

最後になりましたが、お忙しい中ご来場いただきました観客の皆様をはじめ、演奏会の開催にあたってご尽力くださいました関係者の方々に心からお礼申し上げますとともに、本日の演奏会の成功と貴連盟の益々のご発展をお祈りいたします。



早稲田大学 総長
鎌田 薫

第20回東西四大学OB合唱連盟演奏会が開催されますことを、早稲田大学を代表して心からお慶び申し上げます。本日の演奏会開催のためにご尽力いただきました全ての関係者の皆さまに深く御礼申し上げます。

早稲田大学グリークラブは、100年以上の歴史を誇る国内屈指の大学男声合唱団として知られていますが、そのOB会である稲門グリークラブも60年を超える歴史を持ち、日本各地の演奏会で大活躍を続けています。

今回の演奏会では、本学を経て作曲や音楽プロデュース等で幅広く活躍中の菅野よう子さんが、早稲田大学グリークラブのために作詞・作曲した「Song Of Departure」を歌うことになりました。ご来場の皆さまには学生とはひと味違う大人のコーラスの響きを楽しんでいただければと思います。

最後になりますが、東西四大学OB合唱連盟のさらなるご発展とご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



関西学院大学 学長
村田 治

第20回東西四大学OB合唱連盟演奏会の開催を、関西学院大学を代表しまして、心からお慶び申し上げます。1977年(昭和52年)に始まった演奏会も、20回目の記念すべき時を迎えられることになりました。学生時代に毎年開催している交歓演奏会を、現役時代にとどまらず、卒業後それぞれの合唱団が切磋琢磨しあいながらも絆を深め、今日まで息長く続けられたことに、深く敬意を表します。

関西学院は昨年、創立125周年の節目を迎えることができました。これを機に、外国人宣教師たちを中心とした創立時からの「国際性」、スクールモットー「Mastery for Service」に代表される「キリスト教主義に基づく全人教育」を土台としながら、さらなる発展のために、改革に取り組んでおります。関西学院グリークラブも学院創立の10年後(1899年)に活動を始め、わが国でもっとも長い歴史を持つ男声合唱団として活動を続けてきました。そのハーモニーは本学にとって欠かすことのできない、かけがえのない貴重な存在となっていますが、今後も本学の精神を体現する存在として、さらなる発展を願ってやみません。

本日の演奏会の成功と、東西四大学OB合唱連盟の今後ますますのご発展、そして各合唱団の友情が、さらに深まることを心よりお祈り申し上げます。

エール交歓

慶應義塾塾歌

Doshisha College Song

早稲田大学校歌

A Song for Kwansei

STAGE 1 慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団

“Liebeslieder” “Neue Liebeslieder” (愛の歌、新・愛の歌) より

作曲：J.ブラームス 編曲：福永陽一郎
指揮：佐藤正浩 ピアノ：谷池重純子、前田勝則

- I Rede, Mädchen, allzu liebes! / 口を利いておくれ。とても愛らしい娘さん。
- II Am Gesteine rauscht die Flut, / 満潮の波が岩にくだけてどよめいている。
- III O die Frauen, wie sie Wonne, Wonne Tauen! / ご婦人方、あなた方はなんと無上の歓びをしたたらすことか。
- IV Sieh; wie ist die Welle klar, / ごらん、なんと澄んでいる波。
- V Nachtigall, sie singt so schön, wenn die Sterne funkeln. / 星がきらめく頃、ほととぎすが美しい歌を歌っている。
- VI Ein dunkeler Schacht ist Liebe, / 恋はうす暗いたて穴のようなもの。
- VII Wenn so lind dein Auge mir und so lieblich schauet / あなたの目が、それほどやさしく、それほど愛らしく私を見てくれた
- VIII Ein kleiner, hübscher Vogel nahm den Flug zum Garten hin, / 小さなかわいい鳥が庭園の方に飛んでいった。
独唱：亀井淳一 今井達也
- IX Am Donaustrande, da steht ein Haus, / ドナウのほとりに一軒の家が立っていた。
- X Nein, es ist nicht auszukommen mit den Leuten; / だめだ。あの人達とは旨くやっていけない。
- XI Schlosser auf, und mache Schlösser, / 錠前屋さん、起きて、錠前をつくって。
- XII Zum Schluss / 終わりに。

STAGE 2 クローバークラブ

男声合唱とピアノのための「くちびるに歌を」

作曲：信長貴富 作詩：ヘッセ、アレント、リルケ、フライシュレン
指揮：武内和朋 ピアノ：木下亜子

- 1. 白い雲 — Weiße Wolken —
- 2. わすれなぐさ — Vergißmeinnicht —
- 3. 秋 — Herbst —
- 4. くちびるに歌を — Hab' ein Lied auf den Lippen —

STAGE 3 稲門グリークラブ

“Song Of Departure” より

作曲・作詞：菅野よう子

指揮：佐藤 拓

1. Planeta
2. Grindel
4. Rosalind 独唱：武内一矢 塩月信吾
6. Hikari
7. Patria
8. Dinga Linga

STAGE 4 新月会

男声合唱組曲「中 勘助の詩から」

作曲：多田武彦 作詩：中 勘助

指揮：広瀬康夫

- I 絵日傘 独唱：長尾雅典
- II 椿
- III 四十雀
- IV ほほじろの声
- V かもめ 独唱：橋本尚樹
- VI ふり売り 売り声：松帆一郎
- VII 追羽根 独唱：山下 実

STAGE 5 合同演奏

“Sea Shanties” 海の男の歌

指揮：広瀬康夫

1. Swansea Town arr: Alice Parker and Robert Shaw
2. Haul Away, Joe arr: Alice Parker and Robert Shaw 独唱：恵谷篤嗣(新月会)
3. Lowlands arr: Alice Parker and Robert Shaw 独唱：宇佐美健(新月会)
4. High Barbary arr: Arthur E. Hall

クローバークラブ

男声合唱とピアノのための「くちびるに歌を」

「くちびるに歌を」は、近年の合唱界において確固たる地歩を占める信長貴富によって作曲された、全4曲からなるオリジナルの男声合唱曲で、2005年、東海メールクワイアーによって委嘱初演されている。

この作品の魅力と特徴といえば、「ドイツ語によってロマンティックな音像を導き出し、母国語によって懐深くの情感を呼び覚ます」という作曲者のねらいによって、全曲を通して、ドイツ語の原詩と日本語の訳詩を併用するという斬新な試みのもと、言語の融合と音楽の多重性が保たれていることだろう。なお、原詩はいずれも19世紀後半から20世紀にかけて活躍したドイツ語を母国語とする詩人たちによるものである。

1 白い雲 — Weiße Wolken — (詩：ヘルマン・ヘッセ 訳：高橋健二)

「お見よ、白い雲はまた 忘れられた美しい歌の かすかなメロディーのように 青い空をかなたへ漂って行く！」。8分の6拍子の流れるようなアルペジオから紡ぎだされる抒情的なメロディー。Heimatlosen（故郷を離れてさすらいゆくもの）への涙とした憧憬のままに、流れゆく雲に自らを重ねて未知の世界に踏み出そうとする青年のみずみずしい感性が、美しい転調を伴って表現される。空高く舞い上がったに見える青年の心の行く先を微かに予感させながら、曲が結ばれる。

2 わすれなぐさ — Vergißmeinnicht — (詩：ヴィルヘルム・アレント 訳：上田 敏)

上田敏による訳詩集『海潮音』といえば、カール・ブッセの「山のあなた」を思い出す方も多いだろう。この「わすれなぐさ」も同詩集に所収されており、彼の名訳は広く知られている。

「ながれのきしのひととは、みそらのいろのみづあさぎ、なみ、ことごとく、くちづけし はた、ことごとく、わすれゆく」。一人あることの淋しさ。いつか来るであろう死によって、川辺の波に洗われる花さながら、自身の存在もまた忘れ去られていくことに気づいた時の寂寥感。根なし草のようなアンバランスな感情は、やがてホモフォニックなア・カペラで歌われる心の動揺を経て、印象派を思わせる色彩美を見せながら音楽を高揚させていく。テノールからバスへと主旋律を移しながらの、ヘ短調からヘ長調への鮮やかな転調は、限りあるいのちを生きるがゆえの、生あるものの美しさを象徴するこの曲の白眉。

3 秋 — Herbst —

(詩：ライナー・マリーア・リルケ 訳：茅野蒼々)

「葉が落ちる、遠くからのやうに落ちる」。ひたすら続く減三和音の展開と転調によって曲を構成することで、不安は徐々に増幅され、逃れられない死を連想させる陰鬱さが曲を支配する。「我々はすべて落ちる。この手も落ちる」に至って、その事実は一層実存的な課題となって我々に迫りくる。狂気を思わせるリフレインの連続、吐き捨てられるリズム、そしてオクターブを一気に上り詰めながら減三和音で表現される我を失わせるほどの絶望。

果たしてその先には、「しかし一人ある、この落下を、限なくやさしく両手で支へる者が」と語られるように、自我の崩壊の果てに期せずして訪れた、自己の存在すべてを受け止める無限なるものとの出遇いが！

再び、いのちあるものをあざ笑うかのような死の余韻を残して、曲は終わる。

4 くちびるに歌を — Hab' ein Lied auf den Lippen — (詩：ツェザー・フライシュレン 歌詞構成・訳：信長貴富)

還るべきHeimat（故郷）を思わせるピアノの懐かしい響きに導かれ、天啓のように聴こえてくる、ドイツ語によるア・カペラのコーラル。それに呼応するかたちで、ピアノとともに、「くちびるに歌を持って 心に太陽を持って 人のためにも言葉を 持って そしてこう語りかけよう」と、情感溢れる日本語による主題がユニゾンで提示される。色彩感あふれる転調の波を経て、「嵐が吹こうと 吹雪が来ようと 地上が争いで満たされようと」と歌われる中間部では、様々な困難の渦に飲み込まれそうになるものの、やがてそれを吹き払うかのように再びコーラルが響く。それは普遍的なエネルギーに満ちた日本語の主題へとつながり、やがては圧倒的なスケールを伴ったフィナーレとなって、感動的に全曲が結ばれる。

「現代という渇いた時代を潤す歌を」という作曲家の願いに応えるべく、同志社らしいロマンチズムとでも言おうか、そう、「うたごころ」を満たして、この曲に臨みたいと思う。

(武内和朋)



PROFILE

クローバークラブ

同志社グリークラブが創立111周年を迎える今年、クローバークラブも61年目の歩みが続いています。1954年(昭和29年)に関西で始まり、その後東京・東海にも広がり各地での活動が続き、5年前には新たに同志社グリークラブOBシンガーズが地域の枠組みを越えて発足しました。それぞれ別々の活動が続けながら同志社グリークラブにつながるすべてのOBがひとつに集まり声を合わせる。様々な地域・世代を含む多様性とともにもその根っこを一つとするのが「クローバークラブ」です。新たな世代の胎動への期待も込め、本日の演奏曲は新しいチャレンジです。今までとは少し違うクローバークラブを見つけてください。

MEMBER

Tenor 1	Tenor 2	Baritone	Bass
南迫 卓一 (1958)	新矢 起大 (1959)	門田 耕一 (1955)	吉田 庄之介 (1954)
河野賢太郎 (1961)	加藤 英夫 (1960)	野村 忠 (1956)	竹田 守孝 (1961)
影田 武道 (1966)	塩路 良一 (1960)	大友 慶介 (1959)	盛田 恕正 (1961)
北村 徹男 (1966)	土居 康雄 (1962)	川添 正 (1961)	田中 惺 (1962)
小室 泰司 (1966)	松村 紘一 (1963)	下津 啓誠 (1961)	後藤 健夫 (1964)
池田 研一 (1967)	岩木 六馬 (1964)	村田 由高 (1961)	大原 康弘 (1966)
鹿野 勝 (1967)	松本 慎一 (1964)	森本 潔 (1961)	菊地 洋一 (1967)
東 英達 (1970)	牧野 章造 (1964)	山田 英二 (1961)	栗山 昭男 (1967)
萩原 潤三 (1974)	畑 應郎 (1965)	横田 義 (1961)	館 和道 (1967)
伏村 淳二 (1976)	明神 宣生 (1965)	幸田 長明 (1963)	柳原 高志 (1968)
鈴木 恒一 (1981)	小亀 豊 (1966)	牧田 勝久 (1964)	坂東 憲治 (1969)
宮島 寿 (1982)	石黒 武 (1967)	滝沢 裕人 (1966)	中村 徹夫 (1974)
豊田 尚紀 (1984)	岩谷 誠之 (1967)	白井 孝 (1967)	山内 規生 (1976)
西山 勲 (1984)	荒井 直 (1968)	西村 肇 (1967)	稲熊 裕之 (1978)
尾池 智治 (1986)	魚谷 庄司 (1968)	吉田 孝昭 (1967)	松本 潤一郎 (1978)
三宅 厚志 (1987)	松本 公郎 (1969)	遠藤 好俊 (1968)	山田 浩二 (1979)
石井 元博 (1988)	神谷 立正 (1971)	川上 貴裕 (1968)	芦田 直幸 (1982)
八幡 諭 (1988)	橋本 晴海 (1974)	影田 知造 (1971)	筒井 隆文 (1982)
廣島 映一 (1990)	大崎 保則 (1975)	前田 憲一 (1972)	鋒山 琢磨 (1984)
林 克己 (1993)	奥田 茂弘 (1981)	山下 裕司 (1977)	片岡 和彦 (1985)
福田 研二 (1994)	池田 英生 (1983)	弘瀬 嘉夫 (1978)	加藤 栄嗣 (1986)
平谷 有祐 (1996)	辻 透 (1985)	廣瀬 健 (1979)	武内 和朋 (1988)
川出正太郎 (2013)	中小路智一 (1985)	北尾 俊明 (1982)	森藤 泰生 (1988)
金澤 陽貴 (2015)	斉藤 斎 (1986)	小田垣正美 (1983)	山本 徹也 (1990)
	杉田 政治 (1987)	高井 啓行 (1983)	松本 崇 (2003)
	高梨 純 (1987)	長谷川 恵一 (1984)	小川 隆史 (2004)
	奥村 圭司 (1988)	奥野 和敏 (1987)	花谷 周平 (2013)
	瀬戸 正己 (1989)	山口 明彦 (1987)	江川 裕和 (2014)
	田中 祐之 (1989)	梅田 隆司 (1988)	小淵 崇裕 (2014)
	橋本 義博 (1989)	吉岡 康彦 (1988)	
	松本 千尋 (1989)	山崎 知行 (1989)	
	池田 祐一 (1991)	竹内 正 (1991)	
	内田 敏文 (1991)	田村 昌宏 (1991)	
	鹿野 博志 (1991)	市之瀬 崇 (1994)	
	小林 啓 (1993)	竹内 圭介 (2003)	
	森下 貴夫 (1994)	高田 秀平 (2011)	
	大田 駿介 (2013)	池田 恭平 (2013)	
		村瀬 匡貴 (2013)	



指揮者 ■ 佐藤 正浩 ■ 慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団

東京藝術大学声楽科卒業。ジュリアード音楽院ピアノ伴奏科修士課程修了。
1992年、サンフランシスコ・オペラのオーディションに合格、専属ピアニストとして研鑽を積む。1995年、ケント・ナガノ氏の招きでリヨン国立歌劇場の首席コレペティートルに就任。ナガノ氏、ゲルギエフ氏、チョン・ミュンファン氏他のアシスタントとして、パリ・シヤトレ座、ラヴェンナ音楽祭、ウィーン芸術週間などで活躍。同時に指揮者として活動を開始し1999年、イギリス・ダーティントン音楽祭で「イドメネオ」を指揮しデビュー。翌2000年に、新国立劇場で「オルフェオとエウリディーチェ」を指揮し日本デビューを果たし、一躍脚光を浴びる。その後も日生劇場「カルメン」、新国立劇場「トスカ」、藤原歌劇団「愛の妙薬」、東京オペラプロデュース「放蕩者のなりゆき」、いずみホール「ランスへの旅」等を指揮し注目を集める。2008年から和光市にて「ヴェルディ・プロジェクト」を開始し、第一作目の「ナブッコ」で三菱UFJ信託音楽賞を受賞、各方面から絶賛される。2014年、白虎隊をテーマにしたオペラ「白虎」(宮本益光/加藤昌則)を会津若松で初演し佐川吉男音楽賞を受賞した。また三善晃「遠い軌」を12年振りに仙台、東京で再演し絶賛される。仏語バリ初演版「ドン・カルロス」の日本初演は記憶に新しい。今後は藤原歌劇団「仮面舞踏会」、東京芸術劇場「サムソンとデリラ」、名古屋二期会「蝶々夫人」等が予定されている。

愛知県立芸術大学非常勤講師、慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団正指揮者。



指揮者 ■ 武内 和朋 ■ クローバークラブ

1966年、真宗寺院の長男として大分県日田市に生まれる。同志社大学文学部在学中にグリークラブの学生指揮者として研鑽を積む。大谷大学大学院修士課程在学中は、淀川混声合唱団指揮者も。帰郷後は私立昭和女子高校に勤務し、コーラス部顧問として、ミュージカルを8年連続で上演するなど、ユニークな音楽活動を行う。また真宗大谷派合唱連盟の役員として、各地で仏教讃歌の指導にあたりるとともに、2001年～07年には親鸞聖人御誕生会慶讃音楽法要(松下眞一作曲)、2011年には新実徳英作曲の「音楽法要」初演の指揮(いずれも東本願寺)をつとめた。また、同志社グリークラブOBシンガーズ、なにわコラリアーズなどの合唱団を指揮し、高い評価を得ている。現在、国重文・日本遺産の本堂を有する真宗大谷派長福寺住職、月隈こども園理事長及び園長を兼務。園では、合奏やオペレッタの演出など音楽保育を楽しんでいる。妻と三男の5人家族。



指揮者 ■ 佐藤 拓 ■ 稲門グリークラブ

早稲田大学第一文学部卒業。在学時はグリークラブ指揮者を務めた。卒業後イタリアに渡りMaria G.Munari女史のもとで声楽を学ぶ。2006～08年World Youth Choir(世界青少年合唱団)日本代表。現在合唱歌手、合唱指揮者として活動している。古楽アンサンブル「コントラポント」、Japan Chamber Choirのメンバー、東京稲門グリークラブ、日本ラトヴィア音楽協会合唱団ガイスマ指揮者。少人数のアンサンブルに特に力を注ぎ、歌謡喜、laulaula、The Cygnus Vocal Octetといったプロフェッショナルなグループでは1人1声によるアカペラのサウンドを追求している。2013年、The Cygnus Vocal Octetとして宝塚国際室内合唱コンクールで金賞・総合2位を受賞した。声楽を捻金正雄、大島博、森一夫、古楽を花井哲郎の各氏に師事。



指揮者 ■ 広瀬 康夫 ■ 新月会、合同ステージ

神戸に生まれる。関西学院高等部を経て関西学院大学経済学部を卒業。グリークラブでは学生指揮者を務める。1987年より関西学院に勤務し、グリークラブをはじめ多くの合唱団の指導にあたりるとともにカルテットやソリストとしても活動する。1999年、BHS(Barbershop Harmony Society)に登録し、日本でのバーバーショップハーモニーの普及に努める。

故北村協一氏に指揮法を、大久保昭男氏、井上和世氏に声楽を、Egisto Matteucci氏に教会音楽および合唱指導を師事。現在、関西学院グリークラブ技術顧問、新月会指揮者、コール・セコインデ常任指揮者、金沢メンネルコール客演指揮者、九州フレッシュメンコア技術顧問、グリークラブ香川技術顧問、日本男声合唱協会(JAMCA)個人会員、平成指揮者十人の会同人、BHS(本部アメリカ)会員、MHBQA(混声バーバーショップ協会、本部アメリカ)会員、日本バーバーショップ・カルテット協会代表。



ピアノ ■ 谷池 重 紬 子 ■ 慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団

武蔵野音楽大学卒業。卒業後、二期会ピアニストとなり、伴奏者としてのキャリアをスタートする。歌い手の音楽に寄り添うように弾かれるピアノ演奏には定評があり、朝日新聞の天声人語でも紹介された。現在、第一線で活躍している歌手のリサイタル、オペラ、合唱伴奏及びCD録音、放送等、数多くを手掛け、その豊かな音楽性と卓越したテクニックによる、ピアノ1台での見事なオーケストレーション、ドラマティックな音楽作りで聴衆を魅了している。また、国際コンクールのオフィシャルピアニストも務める。1994年から夏のイタリアにおける国際音楽セミナーに伴奏者として参加している。98年には、文化庁在外特別派遣研究員として渡伊。指揮者、コレペティートルのもとで研鑽を積む。新国立劇場オペラ研修所ではコレペティートルとして、東京音楽大学ならびに同大学大学院では講師として、明日の日本オペラ界をになう若き音楽家やピアニスト達の指導にあっている。



ピアノ ■ 前 田 勝 則 ■ 慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団

山口県に生まれる。東京学芸大学教育学部芸術課程音楽専攻卒業。東京芸術大学大学院音楽研究科首席修了、修了時にNTTドコモ奨学金を授与される。ビティナ・ピアノコンペティションをはじめとして、多摩フレッシュ音楽コンクール、日本室内楽コンクール、吹田音楽コンクール、大曲新人音楽祭コンクール、かずさアカデミア音楽コンクールなどに上位入賞。また、NHK-FM「土曜リサイタル」、東京文化会館新進音楽家デビューコンサート、ABC新人コンサート、日演連推薦／新人演奏会などのオーディションに合格、演奏会に出演、オーケストラとの共演も多い。現在、ソロ、室内楽、及び声楽・合唱のピアニストとして活発な演奏活動を繰り広げている。



ピアノ ■ 木 下 亜 子 ■ クローバークラブ

京都市立芸術大学音楽学部卒業、同大学大学院修了。ピアノを中谷弘、宮澤功行、神西敦子の各氏に、チェンバロを春山操氏に師事。学部在学中、第4回ピアノフェスティバル(学外コンサート)等に出演。京都芸術祭デビューコンサート出演。'95年独・マタイザー夏期講習において声楽マスタークラスの伴奏ピアニストをつとめる。'97年釧路音楽協会高後賞受賞。'98年青山財団よりパロックザール賞を受賞。'99年イーストマン音楽学校夏期セミナー'99 in 浜松において伴奏ピアノクラスを受講。Jean Barr 教授に師事。'04年ジョイント・リサイタル開催。現在合唱伴奏・歌曲伴奏・室内楽などにおいて活動を行っている。大阪コレギウム・ムジクムピアニスト。

OB四連トリビア 【演奏会20回の歴史を振り返りました】

Trivia

演奏会場	1位 ザ・シンフォニーホール..... 5回
	2位 東京厚生年金会館..... 4回
	3位 フェスティバルホール、東京芸術劇場..... 3回
作曲者	1位 多田武彦 16回
	2位 高田三郎 7回
	3位 清水 脩 5回
演奏曲目	1位 水のいのち、黒人霊歌 6回
	3位 月光とピエロ、富士山、岬の墓、枯木と太陽の歌、 荘厳ミサ曲 3回
指揮者	1位 広瀬康夫..... 12回
	2位 畑中良輔..... 10回
	3位 小池義郎 7回

OB四連 20回連続出演者

【慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団】

佐藤 紘(1965) Tenor 2
岡本 雅臣(1966) Tenor 1
吉川 信男(1972) Bass

【クローバークラブ】

大友 慶介(1959) Baritone
森本 潔(1961) Baritone

【稲門グリークラブ】

辻田 行男(1962) Bass

【新月会】

北川 勝治(1957) Baritone
山崎 英雄(1962) Baritone

現役演奏会予定 【慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団】

福島公演(福島大学混声合唱団とのジョイントコンサート) ■2015年9月21日(月・祝) 開演:14時(予定) 福島市音楽堂
第140回定期演奏会 ■2015年12月13日(日) 開演時間:未定 東京芸術劇場大ホール
第65回東京六大学合唱連盟定期演奏会 ■2016年5月4日(水・祝) 東京芸術劇場
第65回東西四大学合唱演奏会 ■2016年6月29日(水) 兵庫県立芸術文化センター

【同志社グリークラブ】

サマージョイントコンサート(金城学院大学グリークラブ・立教大学グリークラブと) ■2015年8月26日(水) 同志社大学寒梅館
第111回定期演奏会 ■2015年12月12日(土) いすみホール
第51回全同志社メサイア演奏会 ■2015年12月24日(木) 京都コンサートホール
第111期卒団生の為のフェアウェルコンサート ■2016年2月中旬 同志社大学寒梅館
マレーシア演奏旅行 ■2016年2月23日(火) ~29日(月)
第65回東西四大学合唱演奏会 ■2016年6月29日(水) 兵庫県立芸術文化センター

【早稲田大学グリークラブ】

早稲田大学地域交流フォーラム ■2015年9月27日(日) 栃木市
第63回早稲田大学グリークラブ定期演奏会 ■2015年11月29日(日) 日比谷公会堂
オールワセグリ会 ■2016年1月9日(土) 早稲田大学大隈ガーデンハウス
第65回早稲田大学グリークラブ送別演奏会 ■2016年2月19日(金) 杉並公会堂
第65回東京六大学合唱連盟定期演奏会 ■2016年5月4日(水・祝) 東京芸術劇場
第65回東西四大学合唱演奏会 ■2016年6月29日(水) 兵庫県立芸術文化センター

【関西学院グリークラブ】

関西学院グリークラブ姫路演奏会 ■2015年9月13日(日) 姫路市文化センター大ホール
第46回関西学院グリークラブフェスティバル ■2015年10月4日(日) 関西学院中央講堂
第70回関西合唱コンクール ■2015年10月11日(日) いたみホール
関西学院グリークラブ 第24回 高槻コンサート ■2015年12月23日(水) 高槻現代劇場
第84回関西学院グリークラブリサイタル in 東京 ■2016年2月14日(日) すみだトリフォニーホール
第84回関西学院グリークラブリサイタル in 兵庫 ■2016年2月21日(日) 兵庫県立芸術文化センター
第65回東西四大学合唱演奏会 ■2016年6月29日(水) 兵庫県立芸術文化センター

OB演奏会予定 【慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団】

定期演奏会2015 ■2015年10月4日(日) 開演時間:14時 大田区民アブリコ大ホール
第9回東京六大学OB合唱連盟演奏会 ■2016年7月18日(月・祝) 東京芸術劇場
日本点字図書館チャリティーコンサート ■2016年12月18日(日) 府中の森芸術劇場

【クローバークラブ】

同志社大学ホームカミングデー ■2015年11月8日(日) 同志社大学今出川キャンパス
第3回同志社グリークラブOBシンガーズ演奏会 ■2016年9月18日(日) 大阪で開催予定

【稲門グリークラブ】

稲門祭 ■2015年10月18日(日) 早稲田大学早稲田キャンパス
オールワセグリ会 ■2016年1月9日(土) 早稲田大学大隈ガーデンハウス
第9回東京六大学OB合唱連盟演奏会 ■2016年7月18日(月・祝) 東京芸術劇場
日本点字図書館チャリティーコンサート ■2016年12月18日(日) 府中の森芸術劇場

【新月会】

第46回関西学院グリークラブフェスティバル ■2015年10月4日(日) 関西学院中央講堂
新月会フレンドシップコンサート ■2015年11月23日(祝) 第一生命ホール
第84回関西学院グリークラブリサイタル in 東京 ■2016年2月14日(日) すみだトリフォニーホール
第84回関西学院グリークラブリサイタル in 兵庫 ■2016年2月21日(日) 兵庫県立芸術文化センター
新月会リサイタル2016 ■2016年10月23日(日) 第一生命ホール

第1回東西四大学合唱演奏会の 生い立ちについて

新月会 軽部 潤 (1953年卒)

1952年(昭和27年)9月、第1回東西四大学合唱演奏会が21日に京都同志社栄光館で、23日には大阪産経会館で開催された。東西四大学とは、早稲田大学音楽協会グリークラブ、慶應義塾大学ワグネル・ソサィエティー男声合唱団、同志社グリークラブ、関西学院グリークラブである。何れも明治期と云う日本合唱界草創の頃に発足し、大正、昭和と、その伝統を守り続けて来た名門ばかりで、しかも、この間、お互いに切磋琢磨の努力を続けて来た。そして、同じ「歌う仲間」としての心の結び付きを確かめ合った仲間でもあった。

事実、この第1回東西四大学合唱演奏会までも、それぞれが度々交歓演奏会開催を続けていて、東西四大学合唱連盟も既に発足し、東西四大学合唱演奏会を開催する機運は十分に熟していたが「合唱だけでは東京でお客を集めるのは困難だ」と云う早慶の考えに、先ず、第1回は同志社と関学が世話をして関西の開催が決まった。当時の担当マネージャーが早稲田：田中郁充、慶應：村田 亮、同志社：戸所義雄、関学：小林隆だった。戸所と打ち合わせの為に小林は和歌山から京都まで定期券を求めて度々通い、戸所は早慶の宿舎を同志社近くの相国寺へ頼んだ。結果は京都、大阪ともに満員のお客様をお迎えし、東西四大学の各合唱団は単独演奏を早稲田：坪井秀夫、慶應：田中 孝、同志社：寺本和一、関学：曾山一夫の指揮のもと熱演で応え、更に合同演奏は「Ave Maria」「愛でし友」の2曲を長井齊の指揮で締め括った。

翌1953年9月20日の第2回は東京の日本青年館での昼夜2回公演だったが何れも五分入りの大赤字だった。しかし、第3回の同志社栄光館、大阪・産経会館、第4回の日本青年館と続き、毎年、東京と関西で交互の演奏会が定着した。そして2015年6月28日、東京すみだトリフォニーホールでの東西四連は第64回の大台まで発展した。更に、慶應OB：津下本健一郎の提案で第1回OB四連演奏会が1977年7月3日に東京九段会館で開催された。東京新聞は「ホンモノ？それとも地位利用？」「なぜか大モテ男性中年合唱団、家族の券もとれない」「部・課長の肩書のせいも」と報道した。以後OB四連は隔年毎に東京と関西で開催され、2015年は第20回を迎えるに至った。

この第1回東西四連マネージャー4名の大変な苦勞と努力がなければ、現役四連とOB四連のこれ程までの隆盛は到底なかった筈で、この4名の方に我々は最大の賛辞を捧げ、衷心から感謝を申し上げたい。

(文中敬称略)

S T A F F

■慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団
森田和男・長尾雄平

■クローバークラブ
松本潤一郎・豊田尚紀・西山 勲

■稲門グリークラブ
今澤哲朗・道浦俊彦

■新月会
赤松正昭・吉本耕治・中井三夫・
前田昌男・八木 徹

E D I T O R I A L N O T E

OB四連の発展も東西四大学合唱連盟の結成があったからこそ、20回の長きにわたり開催することができました。20回の節目に際し、今一度、東西四大学合唱連盟の設立にご努力いただいた各校の諸先輩たちに敬意を表し、その生い立ちを紹介させていただきました。

また、今回の演奏会には出演者の多くが現役時代にオンステした事のある、思い出のフェスティバルホールなので一度この新しいステージに立ってみたいと、多くの方がエントリーされて今までの演奏会では最多出演者数となりました。そのため、当初予定していた前日の合同演奏の練習会場も狭すぎて使えなくなり、急遽マネージャー5名で公営施設の練習会場の申込み抽選会に参加することとなりました。

申込みを決める登録直前に2組前の団体が、同日・同時刻・同会場と、まったくダブってしまふ事が判明しました。そこで申込みに来られていたグループのご婦人に対して、申込み直前2分間に「4年に一度、大阪で「OB四連」の演奏会が翌日にあり、そのために必要なのです！」と、必死に懇願した結果、熱意を分かっていたか、譲って貰うことが出来、無事合同練習を行えることになりました。本当にヒヤヒヤもので、今回のマネジメントで一番記憶に残るエピソードでした。

本日ご来場いただきましたお客様、フェスティバルホール、広告スポンサー、印刷企画会社、お手伝いいただいたスタッフ、そして出演者、全ての皆様に感謝とお礼の気持ちを申し上げます。

新月会 赤松正昭 (1966年卒)

2015年6月30日 日本音楽著作権協会 (出)許第1504038-501号